

< 目 次 >

★はじめに	1
★地震について知ろう	2
震度と揺れ等の状況	
直下型地震と震源地が遠い地震	
ライフライン・インフラへの影響	
★大地震に見舞われたら	4
地震発生直後の行動と避難	
参番街自主防災会の役割	
参番街防災備蓄機材	
★中央の森参番街の棟別概要	5
災害時第一次避難場所と指定避難場所	
中央の森参番街の指定避難場所	
近郊の地図と避難場所一覧	
★災害時緊急連絡先	8
★非常持ち出し品一覧表	9
非常持ち出し袋と緊急生活用品	
東日本大震災で役立った震災対策（参考）	
★近郊の主な医療機関と災害時要援護者施設及び福祉施設	11
医療機関・災害時要援護者施設・福祉施設	
★志木第四小学校（指定避難場所）の備蓄品リスト	12
★知って得する情報	13
サバイバルのための情報	
災害用伝言ダイヤル	
高速道路での対応	
★緊急地震速報	14
★参番街自衛消防・防災隊編成表	14
★台風・火災に対する備え	15

はじめに

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われます。裏を返せば災害の危険はいつでもあるということです。常日頃から心の準備をしておきましょうという警告でもあります。

近年は、自然災害の恐怖が強調されています。中でも、最大の恐怖は地震です。2011年3月11日の東日本大震災は、日本人の震災に対する価値観を変えるほどの衝撃を与えました。

自然災害を人間の力で100%抑え込むことは不可能です。この東日本大震災を契機に“減災”ということがクローズアップされてきました。大切なのは被害を如何に少なくするか、一旦災害に見舞われたときにどうして生き延びるかです。その対策を考えておきましょうというのが“減災”の精神だといえます。

不幸にして災害に見舞われたら、

「自助」70%、「共助」20%、「公助」10%

の三原則を思い起こしましょう。

- 「自助」は「自分の身は自分で守る」ことです。
- 「共助」は「隣近所、コミュニティで助け合う」ことです。
- 「公助」は「行政の助け」をいいます。

「共助」の核になるのが「自主防災会」で、参番街でも2009年の秋に結成されました。

参番街のスローガンは「小さな親切、大きな安心」です。地域で助け合いながら災害を乗り切る認識を共有したいと思います。

また、「自助」の中には、当然普段からの備えが含まれます。

地震に見舞われたときどうするか。少しでもみなさまの役に立てばと考えて情報を整理し、まとめて見ました。

地震以外でも、火災や台風に対処したらよいか。日頃から心得ておくべきことについても触れておきました。

このハンドブックが参考になれば幸いです。

<地震について知ろう>

地震の強さは「震度」、規模は「マグニチュード」で表される。

■ 震度と揺れ等の状況

震度	状 況
0	人は揺れを感じない。
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2	屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
4	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などの吊下がった物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が倒れることがある。
5 弱	●大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5 強	●物につかまらなないと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6 弱	●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。 ●ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●屋根瓦が落下したり、建物が傾き、倒れるものがある。
6 強	●這わないと歩けない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建築は、傾くものや倒れるものが多くなる。 ●大きな地割れが生じることがある。
7	●立っていることが出来なくなる。 ●木造建築の被害は大きくなる。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。 ●家具が倒れたりする。飛ぶこともある。

(気象庁資料から作成)

■ マグニチュード

マグニチュードとは、地震の規模を現すもので、通常はMで表されます。

マグニチュードが1 増えると、地震のエネルギーは約 32 倍になり、2 増えるとエネルギーは 32×32 、つまり、1,000 倍になります。

マグニチュードによる地震の呼び名

8 以上	巨大地震	7 ～ 8	大地震	5 ～ 7	中地震
3 ～ 5	小地震	1 ～ 3	微小地震	1 以下	極微小地震

■直下型地震と震源地が遠い地震

地震波には、「縦波」「横波」「表面波」の3種類があります。「縦波」はラテン語の Primae（最初の）の頭文字をとってP波、「横波」は Secundae（第二の）の頭文字をとってS波といわれます。「表面波」は地球の表層を伝わる波です

- (1) 一番警戒しなければならないのは住んでいる地域に近い一定範囲内で起きる直下型地震です。ほとんどの場合、いきなり大きな縦揺れ（P波）が起こり、時間を置いて大きな横揺れ（S波）が来きます。建物は、だるま落としのような現象に見舞われ、被害も大きくなります。
- (2) 震源地が遠い地震でも安心できません。東日本大震災のように震源地が宮城県沖でもマグニチュード9の地震だと、やはりはじめに大きな縦揺れが来て、続いて大きな横揺れが来ます。横揺れの中には「長周期地震」も含まれます。

■ライフライン・インフラへの影響

大地震には、停電、断水、ガスの供給停止、停電に伴う電話の不通などがつき物です。これに対応するには、短時間で各自状況を把握することが求められます。日頃から学習しておくことが大切です。

ガス供給の停止	安全装置のあるガスメーター（マイコンメーター）では、震度5弱程度以上の揺れで遮断装置が作動し、ガスの供給が停止されます。 さらに揺れが強い場合には、安全のため地域ブロック単位でガスの供給が止まることがあります。
断水、停電の発生	震度5弱程度以上の揺れがあった地域では、断水、停電が発生することがあります。 参番街では、給水を集会所の地下にあるタンクからポンプアップして行っており、停電するとガソリンでの自家発電に切り替わります。しかし、3～5時間しか持ちません。 ご承知おきください。
電話等通信の障害	地震災害が発生しますと、揺れの強い地域やその周辺で、電話やインターネット等による安否確認、見舞い、問い合わせが増加し、電話などがつながりにくくなります。 携帯電話は、極度につながりにくくなります。 災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などが有効です。
エレベーターの停止	地震管制装置付のエレベーターは、震度5弱程度以上の揺れがあった場合、安全のため自動停止する。安全確認などのため、運転再開には時間がかかることがあります。
鉄道の停止、高速道路の規制等	震度4程度以上の揺れがあった場合、鉄道、高速道路などで安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が行われます。

（気象庁資料から作成）

<大地震に見舞われたら>

■地震発生直後

3～10秒	●落ち着くこと ●身を守ること ●脱出口を確認、確保すること
1～5分	●家族の無事を確認する ●部屋の中の被害を確認する ●火が出たら大声で叫び、早く消火する ●余震に注意する
5～10分	●ラジオやTVで地震情報を知る ●避難の準備を早くする ●出来るだけ電話は避ける（避難の時間が遅れる）



■避難

- (1) 部屋の中の被害状況を把握してから行動する。
- (2) **被害が小さければ、部屋の中のほうが安全です。**
- (3) 避難生活が長期化する場合に備えた準備もする。
- (4) 避難する場合、参番街の方は、まず中央広場（円形広場）に集まる。
- (5) **参番街の避難場所は第四小学校と決まっている。**
中央広場からは集団で移動する。

■自主防災会の役割

参番街には、町内会と管理組合で自主防災会が組織されています。震災の際重要な“共助”の役割を担う組織です。さらに、自主防災会には、「災害ボランティア」として73名が登録しています。（2012年2月現在）

大震災のとき初動としてやるべき仕事は次のようなものです。

- (1) 自主防災会は管理事務所の安全を確認し、災害対策本部を開設する。
- (2) 災害時要援護者・隣近所の安全確認（号棟、階段ごとに）
- (3) 避難の誘導、手助け
- (4) 負傷者の救助
- (5) サバイバルのため最低1週間分の飲料水と食物の確保
- (6) 正確な情報の収集と広報
- (7) 防災倉庫の開錠と備品の点検・確認
（鍵は、管理事務所、理事長、副理事長、町内会長、副会長が所持）



■防災備蓄資機材（2012年1月現在）



テント	3張り	車椅子	3台
リヤカー	1台	工具箱セット	1セット
トランシーバー	10台	避難用おんぶ帯	8個
LED 避難誘導灯	8個	メガホン	8個
救急箱	1	コードリール	1
防災用自転車	6台	ヘルメット	80個
可搬型スロープ	2基		

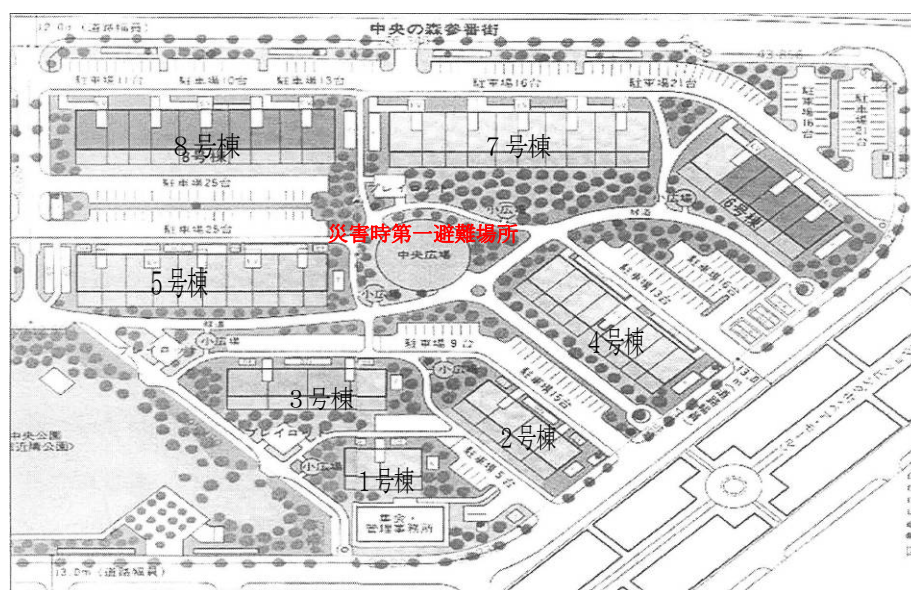
（注）今後必要な備品を計画的に購入、整備していくことにしています。

★中央の森参番街の棟別概要

棟	階数	世帯数	住戸区分	世帯数	消火器	非常警報 発信機
1	3	6	全戸	6	1箇所	1箇所
2	5	20	全戸	20	2箇所	2箇所
3	5	20	全戸	20	2箇所	2箇所
4	8	64	1～4号室	32	17箇所	17箇所
			5～8号室	32		
5	8	80	1～5階	40	17箇所	15箇所
			6～10階	40		
6	11	22	1～2号室	22	29箇所	50箇所
	14	56	3～4号室	28		
			5～6号室	28		
7	14	140	1～4号室	56	50箇所	50箇所
			5～6号室	28		
			7～10号室	56		
8	14	140	1～4号室	56	50箇所	50箇所
			5～6号室	28		
			7～10号室	56		
合計	-	548		548	168 箇所	187 箇所

★災害時の避難場所

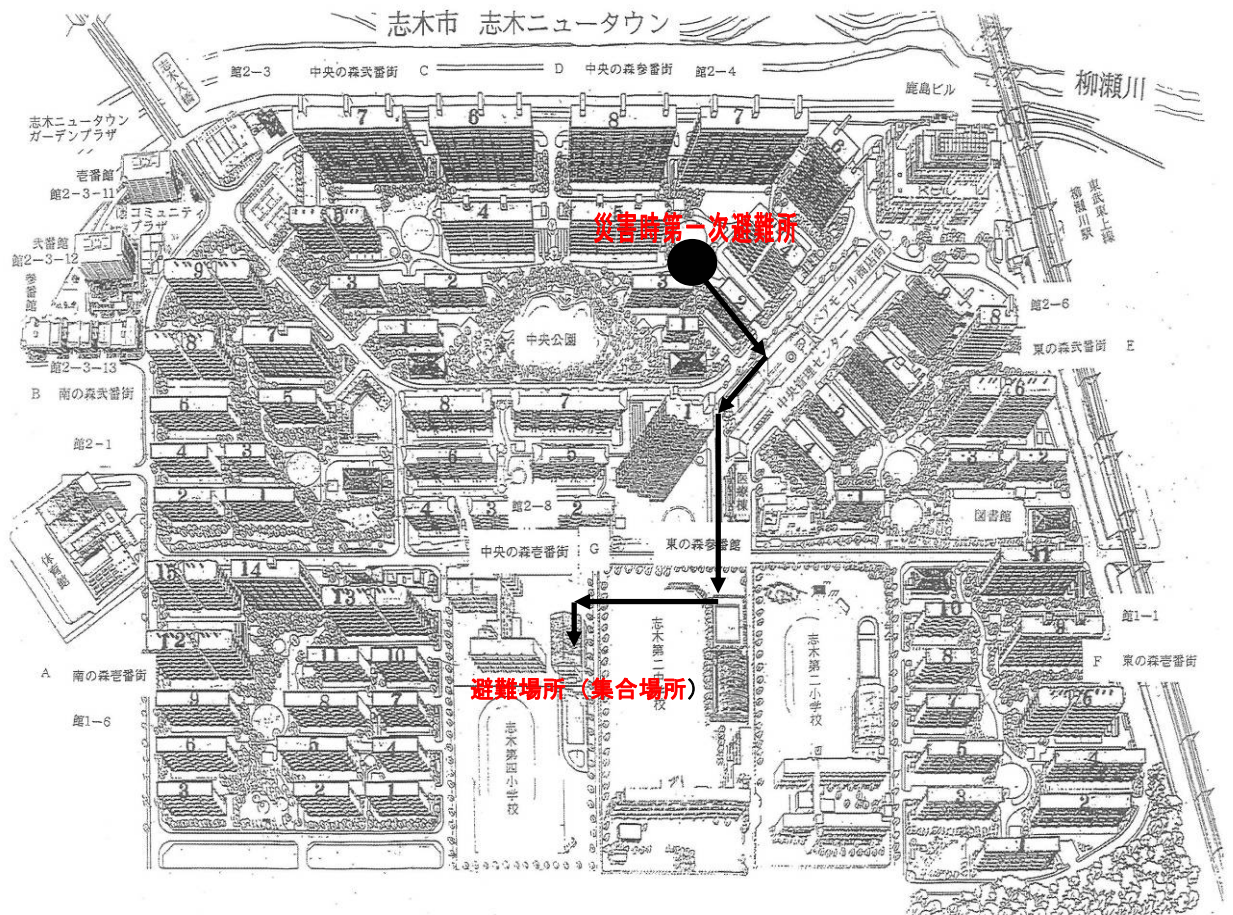
※参番街の第一次避難所は「中央広場」（円形広場）



※中央の森参番街の指定避難場所：志木第四小学校

★災害時の避難経路

※第一次避難所（円形広場）から志木第四小学校へ（太線）



※避難場所（第四小学校）へは複数のグループに分かれて移動する。

災害ボランティアが誘導します。

※第四小学校の校庭に参番街の TENT を張り、情報、指示などの拠点とします。

状況に応じて炊き出しなどの支援活動も行います。

近郊の地図と避難場所一覧

●志木ニュータウン MAP



●近郊の避難場所（データは「志木市地域防災計画(H19年3月版)」による）

(1) 志木市地域防災計画の避難所

	避難所名	住所	電話番号	運動場等 面積(m ²)	避難可能 人員数	長期収容 可能人員数
①	志木第四小学校	館1-4-1	474-7911	14,349	7,174人	597人
②	志木第二小学校	館1-2-1	472-0540	7,889	3,944人	509人

* 志木四小の計画上の避難対象地区は、館1丁目4～6番、館2丁目1～4番・8番

* 志木二小の計画上の避難対象地区は、幸町1～4丁目、館1丁目1～3番、2丁目5～7番

(2) 避難者数の状況に応じて開設する避難所

	避難所名	住所	電話番号	運動場等 面積(m ²)	避難可能 人員数	長期収容 可能人員数
③	市民体育館	館2-2-5	474-7666	1,542	934人	-
④	志木第二中学校	館1-3-1	473-2379	14,484	7,242人	628人

* 市民体育館の計画上の避難対象地区は、館1丁目4～6番、館2丁目1～4番・8番

* 志木二中の計画上の避難対象地区は、幸町1～4丁目、館1丁目1～3番、2丁目5～7番

(3) 状況に応じて開設するその他の避難施設

	避難所名	場所	運動場等 面積(m ²)	避難可能 人員数	長期収容 可能人員数
⑤	館近隣公園(中央公園)	館2丁目地内	8,360	4,180人	-

<災害時緊急連絡先>

● 志木ニュータウン関係

連絡先名	住所	電話番号
(株)東急コミュニティー志木ニュータウン 中央管理センター	館2丁目7-5 志木ニュータウンペあもーる2F	473-7511
(株)東急コミュニティー志木ニュータウン 中央の森参番街管理事務所	館2丁目4	473-7057

● 市役所関係

連絡先名	住所	電話番号
志木市役所（災害対策本部） （避難所開設時の連絡先）	中宗岡1丁目1-1	473-1111 473-1120 （災害時優先）
志木市役所 生活安全課	中宗岡1丁目1-1	473-1111(内 2322)
志木市役所 柳瀬川出張所	館2丁目6-10	472-4449

● 警察関係(110)

連絡先名	住所	電話番号
朝霞警察署	朝霞市幸町2丁目6-9	465-0110
朝霞警察署 柳瀬川駅前交番	館2丁目5-3	475-0045

● 消防関係(119)

連絡先名	住所	電話番号
志木消防署	本町1丁目3-1	472-0119
志木市防災交通消防課(消防団)	中宗岡1丁目1-1	473-1111(内 2321)

● ライフライン関係

連絡先名	住所	電話番号
志木市役所 水道部	中宗岡1丁目1-1	473-1111(内 2712)
東京電力(株) 志木営業所	幸町1丁目8-50	476-4551
大東ガス(株) 志木サービス店	本町6丁目16-49	471-7888

● その他

連絡先名	住所	電話番号
埼玉県朝霞保健所	朝霞市膝折2-5	461-0468
志木市役所 保健センター	上宗岡5丁目14-40	473-3811

<非常持ち出し品一覧表（家庭での防災備蓄品）>

食料、飲料水（1人1日3リットル）は最低3日分の備蓄をしておきましょう。

● 非常持ち出し袋（置く場所を決めておく）

	品目	備考
△	飲料水（500ml ペットボトル）	飲料水や食料は有効期限がある。
	米（アルファ米）	アルファ米は水やお湯を注ぐと食べられる。
◎ △	買い置きの食料	ライフラインが停止しても調理可能なもの。
	乾パン、缶入りパン、缶詰	すぐ食べられることができ、便利。
	缶切り、栓抜き、ナイフ	兼用タイプのをひとつ用意すると便利。
	食器セット	紙器よりプラスチック器の方がよい。
◎	ラップ	洗い物に水が使えない場合に有用。
△	固形燃料、携帯コンロ	最低限、お湯を沸かせる火器が必要。
	ロウソク、マッチ、ライター	ロウソクは太く短い物がよい。（長時間使用）
◎ △	ビニール袋、ポリ袋	雨具にもなり、飲料水も運べる。
◎ △	軍手、タオル	やけどや外傷を防ぐ。
	ロープ、レジャーシート	雨のときは簡易テントも作れる。
△	常備薬、応急セット、ちり紙	外傷手当用品を中心に備える。
◎ △	懐中電灯	防水タイプがいい。予備の乾電池も十分に必要。
◎ △	携帯ラジオ	正確な情報を収集。予備の乾電池も十分に必要。
◎ △	乾電池	充電式のものより乾電池式のほうが役に立つ。
	健康保険証、運転免許証の写し	普段使うので、コピーで代用する。
◎	住所録、現金（小銭も）	公衆電話を使う場合に。

● 緊急生活用品（防災用品、アウトドア用品、必要な日用品）

	品目	備考
	飲料水運搬用ビニールバケツ	5ℓ程度のもの、大きすぎると運びづらい。
	キャンプ用なべ	大、中、小と重ねられると便利。
	カセット式コンロ	予備カセットボンベも用意しておこう。
	下着、身軽な服、運動靴	発汗性のよいもの、ペーパー下着もある。
	ヘルメット（防災頭巾）	余震の際の落下物から頭を守る。
	毛布、寝袋、バスタオル	防寒具、外傷から体を守るために使う。
	石けん、シャンプー	水のいらないシャンプーもある。
◎ △	トイレットペーパー	食器の汚れ取りにも使い、水を節約する。
◎	ウェットティッシュ	水道が使えないときのために。
	防塵マスク	倒壊建造物の粉塵対策に使う。
	紙おむつ	成人用のものもある。
	生理用品	女性の必需品。
	リュックサック	必要品をまとめて収納できる

◎は、阪神淡路大震災で役立ったといわれる防災グッズ

△ は、比較的多くの家庭で準備されている防災グッズ

< 3. 11の東日本大震災で役立った震災対策（参考） >

食器棚の突っ張り棒	リビングの食器棚は、突っ張り棒のお陰で地震の縦揺れ、横揺れを防ぎ、開き戸が開いた形跡は全くなし。中の食器類に全く被害がなかった。 ただし、和室では突っ張り棒が天井を壊す危険があり、家具の転倒防止は別の方法がお勧め。
懐中電灯	初日の長時間停電は懐中電灯とろうそくで凌ぐ。 懐中電灯はリビングの天井を照らす。間接照明と同じ効果を発揮する。
乾電池	懐中電灯用の単一乾電池が不足した場合は、スぺーサーという単三乾電池を入れるケースが代替を果たしてくれた。 単三電池はソーラー充電器で常時充電。買い置きの乾電池に加え、3. 11の夜もラジオで活用。
携帯充電器	停電した場合に備え、ソーラー充電器を準備してある。 毎日充電しており、この夜も携帯電話の充電に役立つ。
ベランダの太陽光ランプ	ベランダにソーラーのガーデンランプが5個置いてあり、毎日使用している。停電時も最低5時間以上点灯。ベランダの明るさを保ち、部屋の中に入れても有効。
携帯ラジオ	通常の乾電池式携帯ラジオに加え、手巻き携帯ラジオが充分働く。懐中電灯とサイレンを兼ねており、一杯手巻きすると40～50分はラジオが聞ける。電池要らず・・
充電式センサーライト	コンセントに常時差し込んでおくと充電してくれる。 廊下のコンセントに常に差し込んである。 充電しておくとも夜は廊下が充分明るい。
ロウソク	短めで太いロウソク、キャンドルサービス用のロウソクが安全で有効。 長いロウソクは余震で倒れる危険がある。
クーラーボックス	停電時に冷蔵庫が止まったが、冷凍庫のものはすぐクーラーボックスに入れ替え、氷を載せて保冷。12時間ぐらいは大丈夫だった。
湯たんぽで暖をとる	3. 11の夜は冷えた。暖房を全て電気に頼っていたため、湯たんぽを布団の中に入れて暖房代わりに活用。 最低限の寒さ対策になった。
やかんは有効	電気湯沸しは停電で使えず。幸いガスが生きていたので、やかんでお湯を沸かす。飲料や湯たんぽに役立った。
水の確保	水道の水が出るうちに、数個の鍋と風呂に水を貯めた。 停電から復帰するまで充分間に合った。
情報の確保	ラジオをフル活用。特に乾電池の要らない手巻きラジオが有効だった。

＜近郊の主な医療機関と災害時要援護者施設及び福祉施設＞

●医療機関

	医療機関名	住所	電話番号	診療科目
①	新座志木中央総合病院	新座市東北1丁目7-2	474-7211	内・外・整・脳・放・小・泌・皮・婦・眼・耳・麻・
②	志木市立市民病院	上宗岡5丁目14-50	472-9211	内・外・小・整
③	浅野病院	本町6丁目24-21	471-2400	内・外・整・脳・放・小・泌・肛・皮
④	柳瀬川駅前クリニック	館2丁目6-11 ペアクレセント3F	486-6201	内・循・呼
⑤	柳瀬川接骨院	館2丁目7-11-290	474-6535	接骨・整体・マッサージ
⑥	たで内科クリニック	柏町6-29-44	485-2600	内・消化器・糖尿病・アレルギー
⑦	志木ホームクリニック	本町5丁目24-18 川島屋本社ビル5F	487-1255	内・整・小・循・リハビリ
⑧	みずほ台病院	西みずほ台2丁目9-5	049-252-5121	内・外・脳神経・歯

●災害時要援護者施設

	施設名	住所	電話番号	定員
①	館保育園	館2丁目6-15	474-2050	90人
②	しあわせの森幼稚園	館2丁目1-2	474-8221	-
③	志木第二学童保育クラブ	館1丁目2-1	474-1100	43人
④	志木第四学童保育クラブ	館1丁目4-1	471-3020	26人
⑤	キンダーケアアンファンシェリ プルミエ	館2丁目5-2	474-3588	55人

●福祉施設

	施設名	住所	電話番号	備考
①	志木市赤十字奉仕団	中宗岡1丁目1-1	473-1111	市役所福祉課
②	社会福祉協議会	中宗岡1丁目3-25	473-7569	志木市福祉センター
③	社協 訪問介護事業所	中宗岡1丁目3-30	486-0610	ヘルパーステーション
④	志木市第2福祉センター	柏町3丁目5-1	476-4122	デイサービスセンター
⑤	志木市保健センター	上宗岡5丁目14-40	473-3811	健康増進事業
⑥	志木市訪問看護ステーション	上宗岡5丁目14-50	471-7008	訪問看護

■ 志木第四小学校（指定避難場所）の備蓄品リスト

品 目	数 量	備 考
備蓄食品	60箱	1箱＝50食
アルファ米	3,000食	保存期間5年間
粉ミルク	96缶	1缶＝320g 保存期間18ヶ月
照明セット	14セット	300Wコードリール発電機
簡易トイレ	30セット	組立ハウス・クリーン
リヤカー	2台	積載強度300kg
テント	5セット	2間×3間 三方幕付
トランジスタメガホン	4個	サイレン付
かまどセット	7セット	容量1斗
ラック	3セット	中量ラック
自転車	8台	放置自転車のリサイクル
石油ストーブ	5台	
ガスバーナー	2セット	
脚立式梯子	1台	
二つ折り担架	4台	
毛布	720枚	保証期間10年以上
タオル	400枚	保証期間10年以上
石ケン	400個	85g
パンパースM	10袋	1袋＝64枚入り
パンパースL	5袋	1袋＝52枚入り
アテントM	5袋	1袋＝30枚入り
アテントL	10袋	1袋＝26枚入り
生理用品	40袋	1袋＝24枚入り
ティッシュペーパー	250箱	1箱＝400枚入り
トイレットペーパー	400巻	60m ダブル
ブルーシート	25枚	10m×10m
ポリタンク	60個	20リットル 白
携帯ラジオ	10個	FM／AM
懐中電灯	70個	
ノコギリ	10本	両刃鋸
ハンマー	10本	4.5kg 柄＝1200mm
金テコ	10本	1200×直径25mm
ナタ	10本	刃渡り 110mm
トビグチ	10本	1800mm
救急箱セット	2セット	50人用
カッター	5本	
哺乳ビン	50本	
空気入れ	1個	
ガソリン携行缶	2缶	20リットル用

■“知って得する”サバイバルのための情報

- ★ 停電すると家庭用電話は通話が出来なくなる。
- ★ 緑色の公衆電話は通じる。(硬貨が必要)
- ★ 携帯電話は通話が殺到するとかかりにくくなる。メールがお勧め。
また、場所を変えてみると携帯電話が通じることもある。
- ★ 携帯電話の充電は、自動車のシガーライターからでもできる。
- ★ 災害対策として、避難持ち出し用品の中に現金も用意しておくとい。
- その場合、小銭が以外に役立つことがある。
- また、身元を証明するものとして、運転免許証、保険証、防災カードを携帯する。
- ★ 洗い物に使う水は、柳瀬川から調達できる。
この水をろ過したいときは、バケツを高いところに置き布(シャツでもよい)を
浸し、一方の端を容器に置くと布がフィルター役目をしてくれる。
- ★ 人が倒れていたら声をかけて反応を見る。
意識がない時は、むやみに動かさない。119番通報をする。
- ★ 避難するときは、ブレーカーを落としておく。電気が普及したときの予防措置。



- 災害用伝言ダイヤル **171** ・震度6以上の地震災害の発生により、被災地への通話が
つながりにくい状況になった場合に、NTT が開設する。
- ・ 伝言の録音の仕方 171-1-被災者宅の電話番号-1#-(伝言を録音) 9#
 - ・ 伝言の再生 (聞き方) 171-2-被災者宅の電話番号-1#-(伝言を聞く) 9#

■高速道路走行中に大地震にあったら・・

高速道路で走行中に大きな地震に見舞われたら、無理をして
運転を続けることは危険です。玉突き事故を避けましょう。
次のような点を覚えておきましょう。



▼車はパンクしたような状態になり、ハンドルを取られる。
▼急ブレーキを避けてゆっくり減速し、左側路肩に停車する。
▼停車したらエンジンを止め三角停止版を置いて、追突事故を防ぐ。
▼万一車両火災になったら、協力して初期消火に努める。
▼非常事態が発生したら、非常電話で管理事務所と連絡を取る。 非常電話は1 km おきに設置されている。一般家庭とはつながりません。
▼地震で警報が出ると、カーナビは使用してなくても緊急情報を伝えます。 ラジオをつけて正しい情報を聞き、慎重に行動しましょう。

■参番街の建物と地盤 (鹿島建設による説明)

鉄筋コンクリートの建造物の耐震性は、建築年代が昭和56年以前か以後かで分かれます。参番街の建物は旧耐震基準による建造物ということになります。
しかし、鹿島建設では耐震基準の改正作業を見ながら、設計と建設工事を行い、新耐震基準にほぼ対応したものになっているとしています。
一方、参番街の地盤は湿地帯を埋め立てて造成されています。しかし、深層部は砂地ではなく、粘土質の地層になっています。このため、地震による液状化現象の可能性は低いと考えられます。また、湿地帯に建設されたため、支柱の根入れが深く、地震に備えているということです。

<「緊急地震速報」って何?>



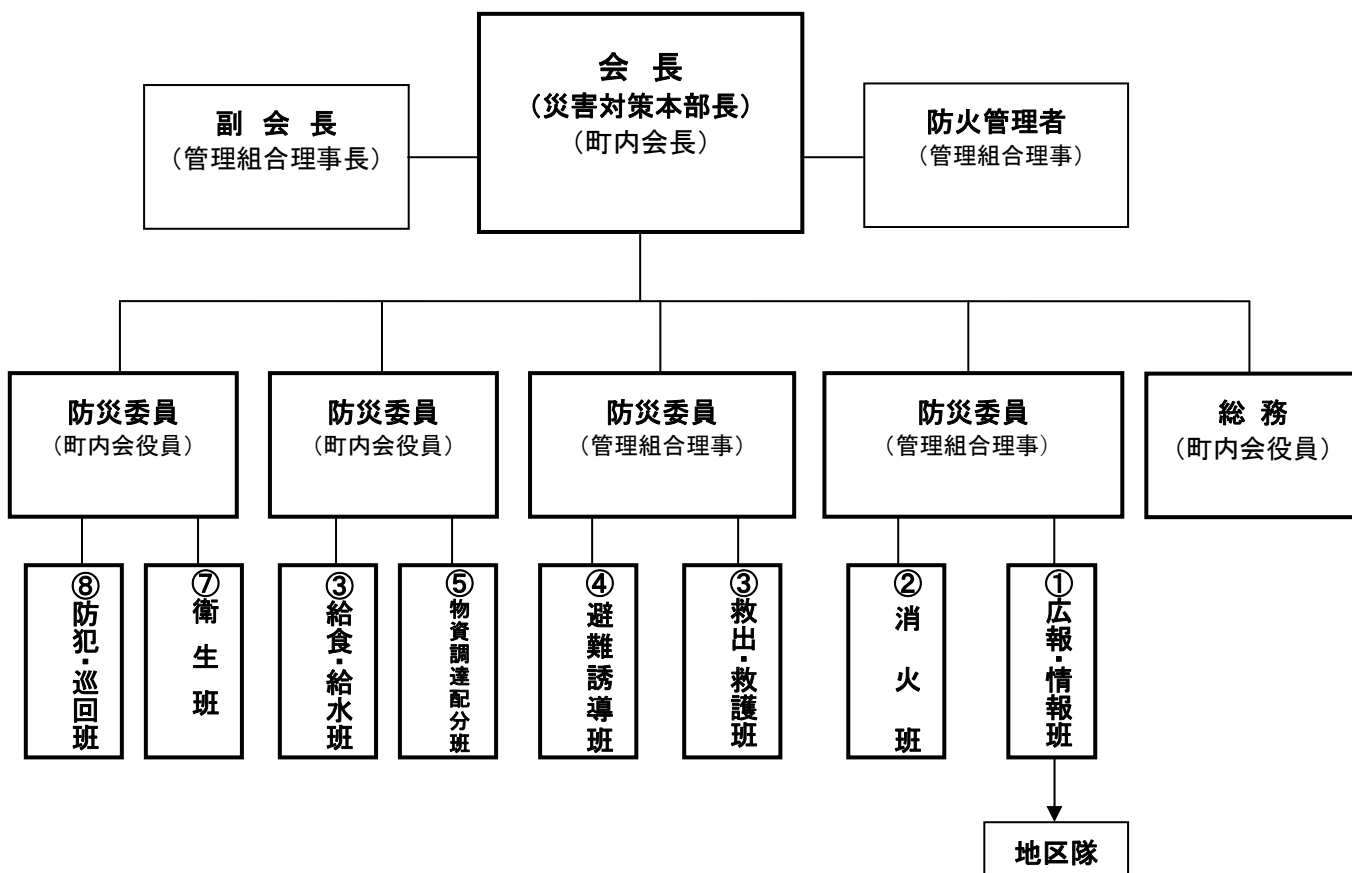
大きな地震が発生した場合、震源に近い観測点で地震波を検知し、震源地や地震の規模（マグニチュード）を推定して、「まもなく強い揺れが来ます」ということを知らせるのが「緊急地震速報」です。気象庁が平成 19 年 6 月から導入しました。実際に地震の揺れが到達するまでの時間は場所によって異なりますが、速報が発せられてから 15 秒から 30 秒ぐらいかかります。この間に、地震に対する備えをすることが大切です。しかし、内陸の震源が浅い地震（いわゆる直下型地震）の場合、緊急地震速報が到達に間に合わない場合があります。

緊急地震速報は、テレビ、ラジオ等の放送で情報を得ることができますが、各家庭では専用の受信端末（事業者から配信を受ける）等を設置しなければなりません。また、最近では緊急地震速報を受信できる携帯電話の機種も増えています。

緊急地震速報の詳細は<気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>> で見ることができます。



<参番街自衛消防・防災隊編成表>



<台風・暴風雨の時は>

通常の台風、暴風雨の際は、出来るだけ外に出ないことが大事です。鉄筋コンクリートの建物では、屋内にいる限り被害にあうことはほとんどありません。しかし、台風が接近する前に次の点は十分気をつけてください。



- ▼ベランダに置いてあるものは、風で飛ぶ危険があります。植木などは屋内に取り込んで一時避難させましょう。
- ▼洗濯物は飛んでいかないよう、部屋の中に撤収しましょう。
- ▼窓は鍵をしっかりと閉めましょう。
- ▼ベランダの排水口にゴミが溜まっていると、思わぬ水害にあう危険があります。排水口にゴミが溜まらないよう、日頃からこまめに清掃するよう心がけましょう。
- ▼外を出歩くときは、樹木の枝が折れ落ちるのに気をつけましょう。
- ▼万が一、柳瀬川が氾濫したときは洪水に見舞われます。特に高層棟(6号棟、7号棟、8号棟)は地下の自転車置場が水浸しになる危険があります。地下へのスロープのある出入り口には、洪水の浸水を防ぐための防水版を設置できる仕掛けが準備されています。柳瀬川の氾濫が予想されるときは、早めに設置しましょう。



<火災が発生したら>

- ▼もし火災が発生したときは、出来るだけ早く119番通報しましょう。
- ▼各号棟には非常警報装置があります。居住者の方に火災を通報し、自分で消火できないと判断したら、屋外に逃げ出しましょう。
- ▼消火器は各所にあります。どこにあるか各自点検しておき、出来ましたらいざという時に使えるよう、防災訓練の際に使い方を確認しておきましょう。
- ▼各棟には、消火用の消火栓が数箇所あり、1箇所に2口ずつあります。一つは消防車用、一つは自家消防用です。細めのホースが設置されていますが、実際に使用するときは相当な水圧が掛かります。一人で扱うのは危険ですので、二人以上で対処してください。
- ▼マンションの火災は、下から上階に燃え広がるケースが一般的です。避難のときは、火元より上階の居住者から避難するよう心がけましょう。

注 意

- ▼火事は起こさないことが一番です。スプレーやプラスチック製品などの燃えやすいものは、火の近くには置かないよう普段から気をつけましょう。
- ▼上階からタバコの吸殻を投げ捨てますと、火災の原因になることがあります。また、下の階のベランダや専用庭を汚すことも考えられます。タバコの吸殻は、絶対に投げ捨てないで下さい。
- ▼共用廊下には、自転車や植木鉢などの物を置かないでください。消火活動の支障になります。